

なんでも12月に安倍首相とロシアのプーチン大統領が会談するらしい。もちろん日本の重要要求課題である北方領土問題を一気に解決させる可能性に期待が膨らむ。

一部では4島一括は難しいので1956年に話が決まりかけた2島返還を目指す。ただ、返せ北方領土！と声高々に叫べばどうにかなる話ではない。では、なぜ北方4島は日本の領土だと主張できるのか簡単に説明しよう。

外務省のホームページでは「日本はロシアより早く、北方4島（択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島）の存在を知り、多くの日本人がこの地域に渡航するとともに、徐々にこれらの島々の統治を確立し……1855年に下田条約で国境を画定した」。この説明がすべてを語るのだろうか。

## 北方4島訪問に日本のパスポートは使えない

その後、第二次世界大戦の終結8月15日以降にロシアが南樺太と北方4島に軍事侵攻を行ない、現在に至っても両国間に平和条約が結ばれず、ハワイにバカンスに行くのと違い、個人旅行はものすごい規制や条件が必要になる。

もっと不可思議なのはこの北方4

島に日本人が訪れる場合、日本のパスポートを使用して訪れることを日本側は容認しないことだ。

たしかに日本領土なのだから日本のパスポートを使用してロシアのスタンプを押して北方4島の土を踏むことがおかしいのは当然だろうが、それによって過去70年以上も2国間の多方面の交流が著しく制限されているのは相互の利益喪失にもつながる。

自分の経験だが、1993年ごろ北海道の女満別飛行場から磁方位090にある国後の当時のメンデレーエフ飛行場まで小型機で行きたいと関係各所と調整をした。外務省ロシア課の松尾課長は私の話を当初おとなしく聞いていたが、「どちらのパスポートをお使いになりますか？」と聞いてきた。迷いもなく、「日本のパスポート」と胸を張って答えたが、松尾課長は「日本領土に日本のパスポートを持ってロシアの入国スタンプを押すのはおかしいでしょう、全省をもってこの計画をつぶします」と烈火の

## 私が北方・沖縄担当大臣 だったら①

Vol.102



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

ごとく怒った。

事情を聞いてわかったが、ついでに「アメリカのパスポートだったら問題なですか」と聞いたら、「アメリカ政府に聞いてみてください」と外務省らしい回答を得た。

そのうちこんな問題も解決されるだろうと思っていたが、首相が何人替わっても、ただただ無駄な25年の時間が過ぎ去っていった。調べてみると、当時の元

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

住民も7000人を切り、あと20年もしないで誰一人として発言できなくなり、「故郷を返せ!」の意義はなくなってしまうのだろう。

## 北方2島とベーリング島を交換しては

そこで私が北方・沖縄担当大臣だったら、こんな提案をプーチン大統領にしてみます。まずはこの距離を示す数字を見てほしい。

納沙布岬(日本領)↓貝殻島(実効支配ロシア領) || 3・7 km / 東京↓グアムの飛行場 || 2532 km / 千歳↓アッツ島(米国領) || 2577 km / 釧路↓アッツ島 || 2396 km / 納沙布岬↓アッツ島 || 2268 km / カムチャツカ半島(ロシア領)↓ベーリング島(ロシア領) || 180 km / ベーリング島↓アッツ島 || 337 km  
プーチンと来た方もいらっしやるでしょうね。北海道から米国までは案外近いのです。もっと近くする方法があります。

返せ北方領土と言っても本当に返されたら今後、社会資本投入にざっくり日本の国家予算(100兆円)が必要との話もあり、誰がその負担をするのか考えたらずっとする方たちもいるでしょう。

この際、2島(蘭舞、色丹)で妥協してプラスアルファの部分を実務

で利益を得てはいかがでしょうか。北海道とアラスカのほぼ真ん中、カムチャツカ半島の180 km東にあるベーリング島(東隣の島も)を択捉、国後の代わりに日本領に編入する提案をしてはどうか。

なぜそんな島を?とイブカる方たちがほとんどでしょうが、しっかりと日本の国益に適う。この東経166度15分、北緯55度0分、長さ90 kmで面積1660 km<sup>2</sup>は沖縄本島よりも40%大きく、オアフ島より少し小さい島に日本の飛行場を作りましょう、という話です。

9月に三菱航空機のMRJが米国に向けてフェリーされたが、途中で千歳、カムチャツカ、アラスカ経由でワシントン州に到着した。MRJはそれ以前に2回のトラブルがあり、名古屋に引き返して、ロシア空域を通るため再度調整を行なう必要があった。なんでも米国と違い、ロシア空域通過の調整は半端なく大変だったそうだ。だったらこの島に日本の飛行場があったらならんら問題がなかったことになる。

最近の長距離飛行をする機体は双発エンジンになっていて、いろいろな規制がある。たとえばETOPS S<sup>1</sup>といって双発エンジンが一発になつたときに飛行できる180分内(その他207分、240分など)

で最寄りの飛行場に緊急着陸できるルート飛ばなければならぬ。

北太平洋ルートでは過去の墜落事件、空港設備などの事情でカムチャツカ着陸を避けたいが、日本領の飛行場であれば多くの国が感謝することになる。

## ロシアの「ツキワケ」と「ハラシヨ」

ありがたいことに日本もロシアも領海は12海里(22 km)である。先ほどのカムチャツカ半島(ロシア領)からベーリング島(ロシア領)までは180 kmあるので、この島が日本領になっても国境も重なることなく、津軽海峡のように回廊が残ることなく世界中の船舶が通過できる。

飛行場もこのベーリング島の地形に合わせれば、仮に50マイルの距離で直線進入着陸してもロシア空域に入ることはないのです。北太平洋の安息の地になるだろう。

ただ地形が平らではないので3000 m級の滑走路とその両サイドのアップローチライトを入れると最低でも5000 mの直線距離は必要だが、日本の土木工学もってすれば可能であろう。なんといっても米国の領のアッツ島まで337 kmになることは米国政府にとってもロシアとのクッション材になるし、日本の外務

省の仕事が増え、力量の見せどころを維持できる。

考えてみれば第二次大戦までは北海道から1000 km離れたカムチャツカ半島のすぐ南にある占守島<sup>シモシマ</sup>まで日本領で、1945年8月18日から21日までロシアと戦闘があり、停戦後は日本兵がシベリアに送られたことは決して忘れることはない。

ベーリング島の東にある米国領のアッツ島、キスカ島においても日本軍が侵攻して米国唯一の地上戦が行なわれ、日本人には決して無縁の地ではないのだ。

よく言われるが、ロシア海軍は沿海州から太平洋に出るために択捉島、国後島の2島の返還は認めないだろう。だったら代わりになんかよこせ!くらいのことを言う欲を持つてもよいだろう。

日本地図ばかり見ないで地球儀を買きましょう。温暖化による北極海の船舶通過の可能性など日本が関与すべきことはたくさんあります。

私が北方・沖縄担当大臣(正しくは沖縄・北方担当)だったら、柔道有段者のプーチン大統領が言うところの「ヒキワケ」の進化した「ハラシヨ」の関係で行きましょう、って言います。

ロシアの金髪・ブルーアイと仲良くなる日はもうすぐですよ♡